



7月になりました。部活動の中体連市大会が始まっています。そして、野球部、男女のバスケット部、柔道部が勝ち進んでいます。他の部活動も、いよいよ大会やコンクールが始まります。三年生のみなさんにとっては、最後の夏です。悔いのない大会、コンクールとなることを願っています。

実際の大会では、勝ちたいという強い気持ちと冷静な頭脳をもって臨むことが大切です。

同じ中学生なので、勝ちたいという気持ちが強いほうが勝ちます。また、冷静な頭脳で試合の流れを判断し、リズムをつくったり、リズムを立て直したりすることも重要です。そんなことを意識して大会、コンクールに臨んでください。

目標は、文化系部活動をふくめ、全部活動、地区大会出場です。そして、それ以上を目指してください。中体連大会は無観客で行われるため、私や教頭先生が応援に行くことができません。みなさんの活躍を心から応援します。

次に、いじめについてお話します。

二年前の7月3日、市内の中学校で、いじめを苦にして中学生が命を落とすという、いたましい出来事がありました。私たちは、「いじめが人の命を奪うことがある」という事実を忘れてはなりません。また、この加納中にもいじめがあり、悲しむ人がいることも忘れてはならない事実です。

そこで今日は、はじめに、いじめはなぜ起こるのかを考えたいと思います。

私たちは、日常の生活で、様々なことに挑戦します。そして、私たちは頑張ろうと考える時、他の人と自分を比較します。分かりやすく言えば、〇〇さんに負けないように頑張ろう、と思うはずです。それは自然なことです。けれども、頑張ってもうまくいかなかったり、頑張ろうという気持ちが強すぎたりすると、相手をおとしめようという邪悪な心が芽生え、それがいじめという行為を引き起こします。

残念ですが、私たちはもともとこの邪悪な心を持っているのかもしれませんが。だから私たちは、邪悪な心が行動に表れない生き方を、日々の生活の中で、身に付けなければならないのです。それは、毎日の生活の中で、繰り返し、相手の気持ちに思いを馳せることで身に付くと言われています。

次に、いじめが起こる様子についてお話します。

いじめの始まりは、男子と女子でちがうと言われます。男子の多くは、気の合う友だちと

グループで行動することが多いと思います。それ自体、問題はありません。けれども、そのグループ内で、いじめが起こることが多いことを知っておく必要はあります。自殺に至ったいじめもこのパターンでした。

はじめは、あだ名で呼ぶ、部活動でふざけ合う、そして、消しゴムを廊下に投げる、文房具を隠す、その後、給食で嫌いなものを無理やり食べさせる、おごらせる、土下座をさせる。

こうしたことがグループ内で行われ、いやがらせの行動がエスカレートします。けれども、もともと仲のよいメンバーですから、そのグループから抜け出しにくい雰囲気があります。それらを見ているまわりの人たちも、いやな印象を感じつつ、もともと仲がよかったことから、仲よく遊んでいるようにも見え、いじめかどうか迷います。

女子の場合は、男子のようにふざけから始まるのではなく、始めからいじめようと思ひ、いじめが始まります。そして多くの場合は、例えば SNS 上で言葉の暴力が続き、それがどんどん積み重なっていきます。あるいは、無視が続き、それらの行為が、いじめられている人を心理的に追い詰めていくのです。追い詰められた人は、だんだん元気がなくなり、抵抗する気力がうばわれます。そして、ある日突然、悲しい出来事が起こるのです。

男子にも女子にも共通するのは、行為や言動がだんだんエスカレートすることです。そして、このエスカレートする段階で、いじめは巧妙に隠されるので、いじめられている人が余程いやな顔をしない限り、異変に気付くことはできないのです。ここが、いじめを見付けることのむずかしさです。そして、まわりにいる人たちが、小さな変化に気付かなければ、いじめは見逃されます。いじめについて考えるときの参考にしてみてください。

いじめについてお話してきましたが、加納中にはいじめ克服のためのボランティア組織「加納中チューター」があります。本年度も多くのみなさんが、チューターに立候補し、先日の「絆づくり集会」も生徒会役員のみなさんと見事に企画、運営をしてくれました。

「加納中チューター」のみなさんは、相談活動、テスト勉強の手伝い、中庭の花壇の整備、植えた花にエアコン室外機の熱風が直接当たらない工夫など、様々な活動に取り組んでいます。そして、多くのみなさんは、何かあったときに相談できる仲間がいるという安心感もっています。これからも、「加納中チューター」のみなさんとともに、いじめを克服していつてほしいと思います。

中体連での活躍だけでなく、少年の主張大会、県の青少年美術展でも、加納中の仲間が活躍しています。また、日常の生活の中でも、私が作業をしていると「手伝いましょうか。」と声をかけてくれる男子生徒など、心優しいみなさんがたくさんいます。

みなさんの活躍、そして優しい心がさらに広がることを期待しています。